

## 連載特集

## あの時代の部活動

## 《吹奏楽部》

## 藤田 和己

(昭和43年冶金科卒)



私は吹奏楽部を目指して秋工に入学した。当時は、「吹奏楽部」とはあまり言われなかった。丁寧に言えば brass band 部、略して通称「ブラバン」だ。正直言って、エンジニアになろうという志は無かったので、学校の勉強は苦手だった。クラス49人中、成績が40～47番目に甘んじた事が何度もあった。

小学校時代、私はボーイスカウト活動をしていた。毎年、全国各地で「ジャンボリー」と称した大会があり、最終日には、その開催地の街並みを国旗や、隊旗を先頭にパレードするのだ。国体の開会式の入場行進のようなパレードである。当然、最前列にはマーチを演奏する音楽隊が並ぶ。今でも忘れない。その時に演奏されていた曲が「国民の象徴」というマーチであった。この曲は今でもラジオでナイター中継する際に中継の初めに流れるテーマ曲で、吹奏楽を経験したことが無い方もきくと耳にした曲だと思う。その曲とパレードに感動を覚え、秋田南中学校へ入学して吹奏楽部、そして、秋工へ進学して吹奏楽部に入学したのだ。秋田南中学校では1年先輩に秋工東海支部の山崎幸一さんがいた。山崎さんは私が中学校を卒業した春休みに秋工吹奏楽部の部室に連れて行ってくれた。まだ入学前のことだ。部室はコンクリート敷きの長い廊下に両側に長屋の様に各部室が並んでいた。ほこりだらけのベニヤ板のようなドアで部室内の棚には大小、使い古した楽器が並んでいた。これが私の秋工吹奏楽部の第一歩であった。

1年生は何かと気兼ねし、気合を入れられる。練習そのものは厳しいと感じた事は無かったが、気合を入れられる方が辛かった。毎週土曜日の夕方は、憂鬱(ゆううつ)だった。「ミーティング」と称して、上級生から気合を入れられるのだ。気合を入れられる理由は1年生にとっては理由がよく理解できない。とにかく、土曜日の夕方は、いや～な日であった。辛い事だけでは無い。結構、3年間の部活は楽しかった。学校の授業を休んでも、午後から学校にやって来て、部活をやって行くという生徒がたくさんいた。私もその一人だった。

気合を入れられた1年生の時が一番記憶に残っている。まず入学して1～2か月目には野球とラグビーの試合の応援があり、ブラバンの出番である。当時は、ラグビーの試合でもグラウンドの応援席でブラバンが校歌、ラグビー部歌、応援歌の伴奏をした。応援するために、保戸野金砂町の学校から秋田市八橋のグラウンドまでの楽器運搬である。今の様に、父母会も無い時代で、すべて部員たちでの楽器運搬。片手に持てるような小さな楽器は2～3年生が自分の分は自転車を持って行った。問題は大きな楽器である。その大きな楽器は「リヤカー」に積んで1年生が運んで行くのだ。「リヤカー」は、学校の用務室から

借りた。問題は、それからだ。学校から八橋のグラウンドまでのタイムレースである。前回は〇〇分で行ったので、今回はそれ以上のタイムで行くというのが習慣だった。時には、走って行くこともあった。今思えば懐かしい。このリヤカーレースは我々時代の後、何年間か続いたようだ。この当時、ラグビーの応援がきっかけで、ラグビーにはまり、子供をラグビー選手へと託し、長男は秋工ラグビー部へ入部した。二男も秋工ラグビー部と頑張ったが、推薦漏れで男鹿工業ラグビーに入部した。私自身、現在は秋工ラグビー後援会の幹事長をしている。

さて、ブラバンは野球の応援やラグビーの応援が本職ではない。演奏会、吹奏楽コンクールなどの本来の演奏があるのだ。当時は演奏会が年3回あった。初夏にサマーコンサート、秋に定期演奏会、2月には1,2年生部員による秋田工業、秋田高校、秋田商業の三校合同演奏会である。そして、秋の定期演奏会の前には吹奏楽コンクール秋田県大会があった。それらの会場は、全て秋田県民会館であった。1～3年生までの間、8回は秋田県民会館のステージに上がった事になる。特に1年生の時の定期演奏会は、第10回の記念演奏会であった。OBとの合同演奏、そして、女子高の秋田北高、和洋女子高校の合唱部との合同演奏と、秋田の高校吹奏楽では初の合唱付きの演奏であった。演奏会の練習には2つの女子高校生が秋工にやって来た。その時、私はまだ1年生。女子高校生の方をチラッとみるのが精一杯。北高には中学時代の同級生もいた。しかし、思いっきり声を掛けられない辛い立場の1年生。あの頃の合唱部の女子高生は、今や69～71歳になっている。当時の合唱部の人達と会ってみたいと夢見る今日この頃である。当時の秋工演奏会は2千席の秋田県民会館は常に満席状態だった。我々部員は入場券を売りまくった。プログラムの広告、税務署への入場税の申告等も全て部員たちでやった。演奏会のアナウンスは秋田北高



第10回定期演奏会 (後方は北高と和洋の合唱部)

の放送部に頼んだ。今思えば、当時は、人に頼む恥ずかしさなど無かったのだ。いよいよ演奏会。校歌の演奏とともに幕が開く。ステージから観客席を見ると、

ほとんどが女子高生だった。秋工生は、「もてた！」。しかし私には、その恩恵が殆ど無かった。

今は毎年、秋工吹奏楽部OB会が行われている。当初は総会、懇親会と型どおりであったが、数年前からご自慢の楽器持参で、お得意の曲を演奏する懇親会となっている。なにも吹奏楽の楽器だけではなく、自由に好きな楽器で好きな曲を演奏する楽しいオジサンバンドのOB会になっている。歯が抜けるまで楽器は吹ける。男女共学では無かったが、秋工に入学しての3年間、今は本当に良かったと思っている。



OB会で演奏

株式会社

渡辺佐文建築設計事務所

代表取締役会長 渡辺 佐文 (A25卒)

〒010-0954 秋田市山王沼田町6番8号 TEL 018-863-8431

